

寒さを吹き飛ばす 湯かけ合戦

～第36回登別温泉湯まつり～

2月3日(土)・4日(日)の2日間、登別温泉街とカルルス温泉街で、『第36回登別温泉湯まつり』(市、登別観光協会共催)が行われました。

3日は、閻魔大王の使者である赤鬼と青鬼の『湯鬼神』が、旅館やホテル、飲食店を回って観光客や市民の旅行の安全や無病息災などを願い、『湯鬼神かぐら』を披露して厄払いを行いました。4日の夜は、登別温泉バスターミナルのまつり広場で、氷点下5度の中、登別温泉の名湯『子宝湯』にちなんだ『子宝もちまき』やメインイベントの『源泉湯かけ合戦』が盛大に行われ、『源泉湯かけ合戦』では下帯姿の男性とさらし姿の女性が紅白に分かれて参加。会場はかけ合う湯で湯煙に包まれていました。

まつりの最後を飾ったのは、昨年初めて開催し好評を博した『地獄の谷の鬼花火』。目の前で打ち上げられた巨大な火柱に、詰め掛けた観客から大きな歓声が上がっていました。



旅行者の案内人で事業化を目指す ～地域観光コンシェルジュ(案内人)の実証実験～



2月5日(月)から12日(月)までの8日間、登別温泉ふれあいセンター遊鬼や白老観光協会、札幌赤レンガカフェの3カ所にコンシェルジュセンターが開設され、登別温泉や札幌市を訪れる観光客をターゲットに、案内サービスを提供する実証実験が行われました。

この実験は、登別市・白老町生活関連産業事業化推進協議会が、旅先の風土を体験したいという旅行者のニーズに応えるため、地域観光コンシェルジュセンターの事業化を目指して実施したもので、同センターにコンシェルジュが待機し、登別温泉や白老町の指定温泉の中から3カ所で入浴できる『湯めぐりパス』の販売や観光名所の紹介を行ったほか、観光プランの相談に応じました。

用意した『湯めぐりパス』は、おおよそ350枚が販売され、利用した観光客の反応に手応えを感じていました。

貴重な動植物が生息する湿原を守る ～キウシト湿原のパネル展～

2月10日(土)から12日(月)までの3日間、ポスフル登別店で『キウシト湿原のパネル展』(キウシト湿原の会主催)が行われました。

キウシト湿原は、今から約6,000年前に海であったところが、海水面の低下により湿原になったところで、環境省の『重要湿地』に選ばれています。この湿原では、希少なワラミズゴケの群落や絶滅が懸念されるオオジギ(野鳥)などを見ることができます。

市民団体の『キウシト湿原の会』は、毎年、湿原に生息する希少な動植物のパネルを展示し、訪れた方にキウシト湿原のPRを行っているほか、市と一体となってキウシト湿原の保全と利活用の取り組みを進めています。

